

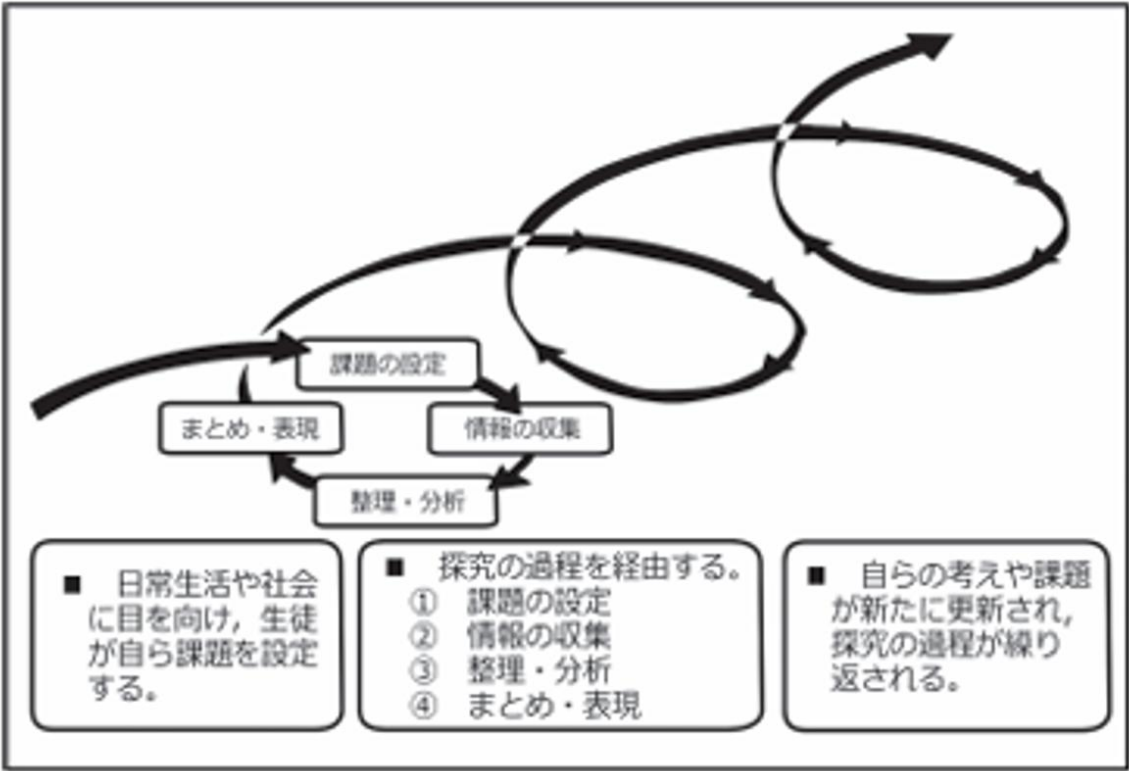
中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第220号
令和8年10月8日

「中丹の教育」コア会議

9月3日（木）、中丹地域の小・中学校教務主任を対象に、令和8年度「中丹の教育」コア会議を開催しました。今回の会議では、「探究的な学び」をテーマとし、**中京大学 教養教育研究院 教授 泰山 裕 様**から「**これからの学校教育に求められる探究学習とは**」と題して御講義いただき、「探究的な学び」についての理解を深めることができました。

探究的な学習における生徒の学習の姿



学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）



講師
中京大学
教養教育研究院
教授 泰山 裕 様

私たちが育てたいのは

「自律的に探究できる子ども」

- 環境や情報が変わっていくからこそ、常に学び続ける必要がある。
- いつか自分で学ぶことができるように、個別の知識を**生きて働く概念的なもの**にしていく。
- やってみないと分からない。だからこそ、**分からないなりにやってみる**。



学びのポイント

- 教科の授業を“**探究のメガネ**”で見る。
この活動は、探究のサイクルのどこに位置付いているだろう？
- 授業の中の「**考える**」を意識する。
比較する？要約する？分類する？応用する？
- 探究の流れ**を子どもにとって**自然な流れ**にする。
なぜグループなの？なぜ他の人の発表を聞いているの？
なぜ施設見学に行くの？



参加者の振り返り

- 「探究的な学び」は難しいというイメージが先行してしまいましたが、**今実践していることを整理すればよい**という話から、それを子どもと共有できるようにしていきたいと思いました。
- 「なぜ今説明する活動を行っているのか」「それは何のためにしているのか」など、**子どもと学び方や学ぶ意味を共有**していくこと、それを積み重ねていくことが、将来を見据えた子どもの力にもつながっていくと思いました。
- 自律的に探究できる子どもを育てるために、子どもたちに**どのように探究してほしいか**を具体的に示すこと、**探究の仕方を教師が教えることが大切**だと学んだ。
- 特に「**教科書から情報を収集できる力**」をつける事、抜き出すスキルや自分の頭で整理、分析する為の基礎の部分であること…とても納得した。
- 探究的なサイクルを回すためには課題発見からまとめまで**全て子どもにゆだねてないといけないのか。（それは無理！）**と思っていましたが、**一部を任せる**ことで経験を積ませて（やってみて）、そのうち学び方を獲得できた生徒は自走できるようになる、ということから、**まずやってみよう**と思うことができました。

《お知らせ》

当日の講師資料をカラー版にして、再度中丹教育局のHPにアップロードしています。データ量の都合上、4つのPDFファイルに分かれています。必要な方はダウンロードしてください。